

今回は別のイベント参加で取材できませんでしたが…



落合 宏美さん



林 利和さん

全隊員が日々精力的に活動しています



とても  
おいしかった!



曾根田 高輝さん

「以前の仕事は利益の追求が目的だった」と言う伊藤さん。今は自分のやりたいことができ、日々の活動にやりがいを感じています。赤城山での羊の放牧に協力している曾根田さんは、宗教上の理由で豚肉が食べられない外国人への対応を提唱しています。「畜産には休みがないから大変。でもやりがいがありますね」と話してくれました。地域活性に対する考えはそれぞれだから地域のひとと食い違いが生まれることもあると語る新藤さん。「そこへ一歩踏み込むことは大変だけれどやりがいを感じます」



活動は苦労もやりがいも



伊藤 武さん

いきなりです。つ協力隊のこれから引き続き注目していきたいです。



前橋の地域おこし協力隊は「フリーミッション型」。そのため、協力隊は個々の経験やスキルを生かし自由に活動することができます。その分、3年間で何を達成するのかが重要になります。それぞれが自身の目標につながる活動に力を入れている今。「ここで何かを成し遂げた」という共通の思いを持つ協力隊のこ



残りの期間で何をするか

前橋に来た当初は話を聞いてもええなこともあったそうですが、今では地域のひとと関係を構築し、協力して企画を成し遂げることと喜びを見出しています。



新藤 裕登さん

## 編集後記

これからは協力隊が活動する農業地域と協力隊の活動に注視していきたいです。(高橋)

大変だけれどやりがいのある仕事。皆さんの目標が実現できたら素敵です。(小内)



協力隊と私たち市民が力を合わせることが地域活性化への一歩だと思いました。(熊本)

私たち若者も自分が住む街に関心を持ち、まちづくりに取り組むことが大切だと痛感しました。(吉田)



ワカモノ  
記者

## 前橋の地域活性化に風穴を地域おこし協力隊を直撃!

市民が作る  
市民編集  
のページ  
Vol.128

都市部から地方へ生活拠点を移し、その土地で地域協力活動を行う地域おこし協力隊。前橋では現在5人が活動しています。平成29年6月から移住し3年の活動期間も折り返しの時期に。彼らの今とこれからを取材しました。

担当 小内香生流・熊木奏来・高橋梨華・吉田綾野

固 生活課 ☎027-898-6510



応募のきっかけは?

今回は宮城いいもん祭りに参加している協力隊、伊藤さん、新藤さん、曾根田さんの3人に密着です。伊藤さんは都内でシェフをしていましたが、地元食材を使った料理教室などを開催し、食をとおして地域貢献したいとの思いから前橋に来ました。曾根田さんは国のために地方を維持していきたいというスケールの大きな熱意を持っています。新藤さんは猟師の資格を取り、前橋で狩猟を行っています。有害鳥獣対策だけでなく、狩猟肉を生かす方法を模索しています。



ピッツァ作りが縁作りに

この日の協力隊の仕事はピッツァ作り教室の開催。ピッツァ作りは子どもから大人まで簡単に楽しめて、協力隊が地域の皆さんと一緒に和気あいあいとイベントを盛り上げているのが印象的でした。私たちもいざ体験!自分たちで作った焼きたてのピッツァは格別のおいしさでした。